

病院局

更新日：令和5年5月7日

新型コロナウイルス対策に関する対応状況

○対応状況

- 川崎病院は、市内唯一の第2種感染症指定医療機関（感染症病床数12床）として、新型コロナウイルスへの感染が確認された患者等の受け入れを行っている
- 新型コロナウイルス対策として、川崎病院においては院内にて定期的に対策会議を行っている。
- 川崎病院においては、患者や来院者向けに「新型コロナウイルス対応のお知らせ」の掲示板を作成し、正面入り口や総合受付に設置した。また他の市立病院においても、同様のお知らせを作成し、院内に掲示している。（R2/2/4）
- 市立病院職員と病院局本庁職員が接触するような場合は双方の職員とも必ずマスクを着用するよう周知を依頼した。（R2/2/4）
- 市立3病院において面会制限を開始した。（R2/2/28）
- 市立3病院において家族においても原則面会禁止とした。（R2/3/27）
- 「神奈川モデル」に連携し、川崎病院では重症患者等に対応する高度医療機関として、井田病院及び多摩病院では中等症の患者に対応する重点医療機関としての体制を整備し運用を開始した。（R2/4/15）
- 「緊急事態宣言及び川崎市業務継続計画（BCP）を踏まえた川崎市立病院運営方針について」を策定した。（R2/4/20）
- 井田病院は市内唯一の結核病棟をコロナ専用病床に転換し、新型コロナウイルス感染患者等の受け入れ拡大を図った。（R2/4/9）
- 井田病院において、令和4年7月に結核患者を受け入れるため結核病棟を再開した。（R4/7/25）

○新型コロナウイルス感染症患者の受入

- 川崎病院では、「神奈川モデル」における高度医療機関及び重点医療機関として、また井田病院及び多摩病院では重点医療機関として、新型コロナウイルスの拡大状況に応じて、一般病床の一部休床によるスタッフの配置転換などを行い、フェーズに応じた病床体制を増強・確保してきた。第7波で職員にも感染が増加する状況での厳しい体制の中、特設外来に患者が一時的に殺到した。入院患者も増加したが、適切に感染者受入れ等に対応できた。
- 井田病院は、令和4年12月に神奈川県モデル医療機関認定要綱が改正され、疑似症病床の認定区分が廃止されたことに伴い、これまで確保していた疑似症病床を確保病床に組入れた。
- 多摩病院において、令和5年1月に、新たに小児科を1床確保し、神奈川県との協定書の締結を行った。

◀県による病床確保 災害特別フェーズ（最大）における確保病床数▶

川崎病院	62床（重症26床含む）
井田病院	35床（過去最大92床）
多摩病院	37床
市立3病院合計	134床

- 救急やがん、小児、周産期など地域における重要不可欠な医療を提供しながら、新型コロナウイルス感染症患者の受入れも積極的に行ってきた。

「これまでの新型コロナウイルス感染患者受入れ数」(R5.4月末まで)

川崎病院	1, 220名(うち重症304名)
井田病院	1, 696名
多摩病院	1, 517名

○**川崎病院 DMAT 隊員の派遣**

- ・市内医療機関からのコロナ陽性患者の搬送先及び搬送手段の調整等のため、県及び市医療調整本部へ DMAT 隊員の派遣を行った。(R2/2~)

○**病院事業管理者メッセージの発信**

- ・主に医療従事者に向け、安定的な医療サービスを提供していくため、感染防止管理対策等についてメッセージを発信した(R2/6/29)。

○**市立病院の現状について動画配信**

- ・新型コロナに対する院内の状況についての動画を川崎市チャンネルに掲載した(川崎病院は R2/5/15、8/11。井田病院は R2/5/26、R2/11/5。多摩病院は R2/12/24)。この動画は各種メディアでも取り上げられた。

○**「新型コロナウイルス感染症出前講座」等の実施**

- ・川崎病院(R2/6/29)及び井田病院(R2/7/14)において、地域と連携した感染症対策を推進するため、感染症専門の医師や看護師が高齢者施設等に出向き、講義や施設ラウンドを通じた感染対策を行う「感染症出前講座」を企画・周知した。

○**市政だより川崎病院長のコメント等を掲載**

- ・市政だより(R2/8/21号)に川崎病院長と救命救急センター勤務の看護師へインタビュー記事を掲載

○**川崎病院感染管理認定看護師のクラスター発生病院等への協力派遣**

- ・川崎区保健所支所及び健康福祉局から、クラスターが発生した病院や高齢者施設に対して感染対策に関する指導について協力要請があり、川崎病院感染対策室の担当課長(感染管理認定看護師)の派遣を行った。(R2/5~)

○**多摩病院感染管理認定看護師のクラスター発生病院への協力派遣**

- ・クラスターが発生した病院から、感染対策に関する指導について協力要請があり、感染管理認定看護師の派遣を行った。(R3/5)

○**病院広報誌「新型コロナウイルス関連特集号」の発行**

- ・新型コロナウイルス感染症への対応や院内における感染防止対策などをまとめた病院広報誌を市立2病院で作成・発行し、院内外に周知した。

川崎病院：広報誌「くすの木」を R2/6/11、R2/8/18 に発行。

さらに、特別号として「川崎病院コロナ奮闘記」(R3/2/26)を作成・発行した。

井田病院：広報誌「井田山」を R2/6/2、R2/10/21 に発行。

○「新型コロナウイルス感染症出前講座」等の実施

- ・川崎病院（R2/6/23～R4/6/29）及び井田病院（R2/7/15～R3/12/22）において、地域と連携した感染症対策を推進するため、感染症専門の医師や看護師が高齢者施設等に出向き、講義や施設ラウンドを通じて「感染症出前講座」を企画・実施した。

○市立3病院における検査体制の増強

- ・市立3病院において、それぞれの病院における検査体制に応じて、新型コロナウイルス検査を行うための必要な医療機器（LAMP法やPCR検査、抗原定量検査）の整備を行った。

○市立3病院におけるクラスターへの対応

- ・それぞれの病院で、医師、看護師などの医療スタッフや入院患者を含む複数の新型コロナウイルス感染が判明し、一定期間、一部の病棟において救急対応や新規入院の受入れを制限した。

市立多摩病院（R2/10/30～R2/11/17）

市立井田病院（R3/2/17～R3/3/25）

市立川崎病院（R3/9/8～R3/9/22）

市立井田病院（R4/1/11～R4/1/31）

市立多摩病院（R4/5/2～R4/5/14）

市立川崎病院（R4/7/19～R4/7/30）

市立川崎病院（R4/7/28～R4/8/8）

市立川崎病院（R4/8/8～R4/8/22）

市立井田病院（R4/9/9～R4/9/20）

市立井田病院（R5/1/2～R5/1/11）

○ワクチン接種への対応（R3/3～）

- ・健康福祉局や関係団体と連携し、医療従事者（自院を含む約1万人）及び在宅系の介護従事者（約1,800人）の1回目及び2回目のワクチン接種の対応を市立3病院で行った。県のシステム構築の遅れにかかわらず、医療従事者接種の重要性を鑑み、事前に医師会や歯科医団体、薬剤師団体等を通じて、独自手法によりきわめて早い時期から、自主的に実施し（川崎病院・井田病院）、各団体から称賛をいただいた。
- ・市民へのワクチン接種の対応として、各区における集団接種会場へ医師等スタッフの派遣を行うとともに、市立3病院において個別接種を実施した。
- ・3回目接種については、医療従事者等を対象として令和4年2月以降実施した。
- ・4回目接種については、病院職員（委託業者職員を含む）を対象として令和4年8月～10月の期間で実施した。
- ・5回目接種については、病院職員（委託業者職員を含む）を対象として令和4年11月～令和5年1月の期間で実施した。

○新型コロナウイルス感染患者の受入対応（R4/1～）

- ・令和4年1月以降は、神奈川県との協定に基づき1月6日付けの病床確保フェーズを「1」から「3」へ引き上げる依頼により、川崎病院は1月20日より、井田病院1月8日より確保病床の拡大及び医療スタッフの受入体制の整備を行った（多摩病院はフェーズの変更に伴う病床数の変更なし）。
- ・令和4年1月21日、さらに県通知により病床確保フェーズを「3」から「災害特別フェーズ」に引き上げられ、市立3病院とも確保病床を拡充した。

- ・ 3月18日、病床確保フェーズが「4」に引き下げられたため確保病床を調整した。
- ・ 4月7日、病床確保フェーズが「3」に引き下げられたため確保病床を調整した。
- ・ 4月21日、病床確保フェーズが「2」に引き下げられたため確保病床を調整した。
- ・ 6月13日、病床確保フェーズが「1」に引き下げられたため確保病床を調整した。
- ・ 7月13日、県通知により病床確保フェーズを「1」から「3」に引き上げられ、確保病床を拡充することとした。
- ・ 7月15日、川崎病院では、入院動向から判断して確保病床を拡充した。
- ・ 7月22日、川崎病院では、入院動向から判断して確保病床をさらに拡充した。
- ・ 7月26日、病床確保フェーズが「4」に引き上げられたため確保病床を拡充した。
- ・ 9月6日、川崎病院では、入院動向から判断して確保病床を調整した。
- ・ 9月12日、病床確保フェーズが「3」に引き下げられたため確保病床を調整した。
- ・ 9月27日、病床確保フェーズが「2」に引き下げられたため確保病床を調整した。
- ・ 10月11日、病床確保フェーズが「1」に引き下げられたため確保病床を調整した。
- ・ 11月4日、井田病院では、病院単独で病床確保フェーズを「2」に引き上げ確保病床を調整した。
- ・ 11月7日、川崎病院では、入院動向から判断して確保病床を拡充した。
- ・ 11月16日、病床確保フェーズが「3」に引き上げられたため確保病床を拡充した。
- ・ 12月14日、川崎病院では、入院動向から判断して確保病床を拡充した。
- ・ 12月27日、川崎病院では、入院動向から判断して確保病床を拡充した。
- ・ 令和5年1月10日、川崎病院では、入院動向から判断して確保病床を調整した。
- ・ 1月23日、川崎病院では、入院動向から判断して確保病床を調整した。
- ・ 2月7日、井田病院では、病床確保フェーズを「3」のまま確保病床数を21床に調整した。

○面会制限について

- ・ 新型コロナウイルス感染の急拡大を受け、市立病院において面会制限を再度強化した。(R4/1/8)

○病院間を行き来する職員の制限について

- ・ 新型コロナウイルス感染の急拡大や井田病院におけるクラスターの発生を受け、診療のため川崎病院及び井田病院を行き来していた医師の往来を当面の間、中止とした。(R4/1/11～ R4/1/26)

○職員の感染対策の徹底について

- ・ 新型コロナウイルス感染の急拡大や井田病院におけるクラスターの発生を受け、院内の特に感染リスクの高い診療科・部署等ではN95マスクを使用することとした。また、本庁管理職会議にて局長から職場での感染防止対策の徹底等を指示した。(R4/1/11)

○業務執行体制の確保等について

- ・ 本庁管理職会議にて局長から新型コロナウイルス感染拡大に備えた業務執行体制確保の検討及びBCPの確認を指示した。(R4/1/12)

○現場への応援体制について

- ・ 本庁管理職会議にて病院事業管理者及び局長から、病院現場の事務部門へ応援体制を組む可能性を踏まえ検討するよう指示した。
- ・ 病院事業管理者から、有事に備え日ごろから局全体で一体感をもって対応することが必要である旨指示した。(R4/1/12)

○院内における研修の取扱いについて

- ・新型コロナウイルス感染の急拡大や井田病院におけるクラスターの発生を受け、院内における研修は中止又は録画対応やWeb 等を活用したものに変更し対応した。(R4/1/12)

○沖縄県に看護師を派遣

- ・全国知事会からの要請を受け、新型コロナウイルスの感染拡大により医療従事者が不足する沖縄県へ看護師（1名）を派遣した。(R4/1/19～R4/2/18)